

Childrenn Learn What They LIVE

校長 中島 清昌

- 1 批判ばかり受けて育った子は非難ばかりします。
- 2 敵意に満ちた中で育った子はだれてでも戦います。
- 3 ひやかしを受けて育った子ははにかみ屋になります。
- 4 ねたみを受けて育った子はいつも悪いことをしているような気 持ちになります。
- 5 心が寛大な人の中で育った子はがまん強くなります。
- 6 励ましを受けて育った子は自信を持ちます。
- 7 ほめられる中で育った子は感謝することを知ります。
- 8 公明正大な中で育った子は正義心を持ちます。
- 9 思いやりのある中で育った子は信仰心を持ちます。
- 10 人に認めてもらえる中で育った子は自分を大事にします。
- 11 仲間の愛の中で育った子は育った子は世界に愛を見つけます。



この詩は家庭教育学者のドロシー・ロー・ノルトが、「アメリカインディアンの教え」として発表したものです。

「Childrenn Learn What They LIVE」を訳すと「子供たちはこうして生き方を学びます」となります。

子供たちは私たち大人をモデルとして育ちます。子供たちの生活の中心は、家庭であり学校です。子供たちが心豊かに育つためには、私たち大人がどんな生き方をし、子供に接しているかが大切だと思います。

子供たちに接する時の教えとして「子育て四訓」があります。これもアメリカインディアンの教えだそうです。

幼児はしっかり肌を離すな
幼児は肌を離せ、手を離すな
少年は手を離せ、目を離すな
青年は目を離せ、心を離すな



これを小学生として考えてみると、

低学年は「幼児は肌を離せ、手を離すな」になると思います。低学年の子供たちは、様々な場面で手をかける必要があります。しかし、いつまでも手をかけすぎると、自立にはつながらないので、少しずつ手を離していきます。

中学年から高学年にかけては、「少年は手を離せ、目を離すな」になると思います。手を離して、任せる部分は任せながら、望ましい方向に進んでいくために目を離さないことが大切になります。

「青年は目を離せ、心を離すな」は子供たちが親元を離れていけば目をかけることもできなくなります。その時には心をかけて安心させてあげることが大切になります。

子供たちの成長は一人一人違いますが、成長に合わせた接し方を考えていくことが大切です。

令和6年度も残り1ヶ月です。子供たちが夢や希望をもって次のステージへ向かえるように学校・家庭・地域で見守っていきましょう。よろしくお願いします。



5年生 体験学習 『しいたけのこまうち』 『さとうきびからの贈り物』 『奄美テレビ見学』



さとうきびを刈り、水間製糖で絞ってもらい、黒糖作りを見学して、奄美少年自然の家で黒糖作りを行う等、充実した体験ができました。

さらに、森林学習の一環での椎茸の駒打ちや奄美テレビでのアナウンサー体験等、充実した学習も行いました。



入学説明会

13日に入学説明会を行いました。現段階での入学予定者は33名。1クラスを予定しています。

入学説明会では、「子育て講座」として、奄美市健康増進課保健師の岩多様を講師としてお招きし、ペアレントプログラム「子供への関わり方」についてご講演いただきました。全保護者に聞いていただきたいくらいすばらしい内容のご講演でした。

今回は、体験入学も復活し、1年生との交流や5年生による学校探検を行いました。学校としても今から入学が待ち遠しいです。



お楽しみ集会

今年度最後の土曜授業では、お楽しみ集会を行いました。4年生から6年生が、全校児童が楽しめるようアイデアを出し合い、遊びを考えたり、係を決めたりしながら運営していました。その遊びも混雑する賑わいで、笑顔いっぱいでした。

また、学校評議委員の皆様にも参加していただき、子供たちの様子をご覧いただくことができました。





令和6年度
奄美市立伊津部小学校

さざ波バンド
コンサート



日時：令和7年3月15日(土)
13:30 開場 14:00 開演
場所：奄美川商ホール

～ 入場無料 ～